

森の子コレンジャー活動報告 -8月-



←カウ
ント
調査中



← データを表にまとめる



→ 午後の活動を仲間に伝える

→ かずやが作成している
コレンジャー新聞6月号

8月の活動はどんぐり豊凶調査でした。調査は今年で3年目となり、調査地につくと「今年は去年より多いな」「コナラは木が弱っているよ」という声が。

1年ぶりの調査ですが、コレンジャーにとってもどんぐりのなりが気になるようです。もしかすると森の野生動物たちもどんぐりを見ているかもしれませんね…

カウント調査後データをまとめて、調査中に気がついたことを共有しました。9月には、過去と比較しての結実変動や8月からの変化を見てみたいと思います。

午後は、きのこ・昆虫・冬の動物レストランの草抜きをそれぞれ選んで活動しました。暑い夏でもコレンジャーは森とのお付き合いを続けています！

鳥 今月の森の子コレンジャーでは、鳥の鳴き声を一時間静かに聞いていました。鳴き声の種類は、約十種類聞こえました。

ツツドリ
カケス
クロツグミ
ヤマガラ
コゲラ
ホトトギス
イカル

・ ・ ・ ツツツ
・ ・ ・ ガーガ
・ ・ ・ ビービー
・ ・ ・ ツンピーツンピー
・ ・ ・ ギャーギャー
・ ・ ・ ホトトギスホトトギス
・ ・ ・ キーキー

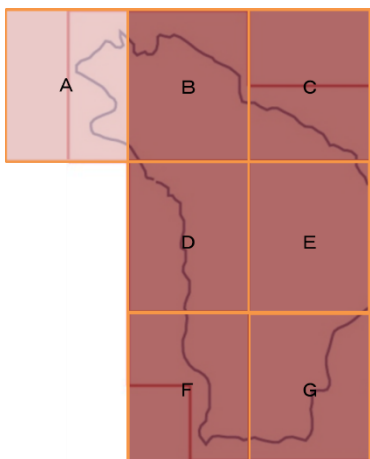
学習感想
ぼくは鳴き声を聞いたので、こんなは実物を見たいです。

木林の子コレンジャー新聞

平成27年5月7日
袋田 和也



2015年のどんぐり着果状況



並作

不～並作

樹種	着果状況
コナラ	並
ミズナラ	並～豊
クリ	不～並
ブナ	凶

今年はある野市内にあるブナ科の中で約390本の着果状況を調査しました。

今年のどんぐり着果状況をお知らせします。

市の西側にあたる旧五日市町の森。去年は全体の平均は不～並作でしたが今年は並作です。ミズナラは並～豊作、コナラは並作ですが、市内の森に自生するヤマグリの多くが凶作に近い不作で、人家付近の栽培種のクリやオニグルミは並～豊作です。

実りの秋が始まりますが、カキやクリ、キウイなどの果実が実ったら収穫し、野生動物の食べ物となるようなものは放置しないよう気をつけましょう。

私たちの心がけや行動が人の生活を守り野生動物の命をも守ります。

「あきる野の生物多様性を次世代へつなぐ」ことを多くの人が心にとめる秋となればいいと思います。

(加瀬澤)



ハチクマ: やや大型の猛禽類で、「夏鳥」として日本に飛来します。繁殖が終わり南下して行く途中、サシバなどと一緒に「鷹柱(たかばしら)」を作る時は何百羽も同時に見ることもありますが、あきる野では少数です。

9月がやって来ました、鳥類の渡りの時期です！夏に繁殖のため飛来してきた鳥たちの南下や、山岳地帯から低山地や沿岸部に移動する鳥たちなど、様々な鳥類が渡りをします。あきる野で普段見られない種類も観察できる絶好の機会です。

見られる種類は毎年同じではなく、年によって変わることもあります。さらに、各種類の羽数も変動します。あきる野では、秋の渡りの時に一時滞在するミサゴやノビタキが人気ですが、サシバの群れやハチクマの渡りも行われます。そしてあまり知られていない種類のハリオアマツバメやチゴハヤブサも少数ですが、場合によりこの地域を通過します。

見通しのいい所なら、あきる野のほぼどこでも渡り中の鳥類を観察することができますが、特に見晴らしのいい山頂や河川敷(基本的に種類は異なります)はおすすめです。そして、双眼鏡を忘れずに。

さっ！今年も秋の渡りをお楽しみに！ **[パibro]**



エゾビタキ:「旅鳥」で、9月中にあきる野の低山の森林などで見ることができます。色は地味ですが、見られる時期が限られ、実物をよく見るとなんとなく魅力が感じられる可愛い小鳥です。明るい森で観察しやすい鳥類です。



オオミズナギドリ: 6年間のレンジャー活動で数回しか確認していませんが、この「海鳥」は河川を経て陸部を渡ることがあります。同様に、カモメの仲間もこの時期に多摩川や秋川周辺に飛来します。



チゴハヤブサ: 昨年は別々で2羽の渡りを確認しました。あきる野で一年中に見られるハヤブサよりもスリムで、基本的に腹の下が赤いのが特徴です。東北地方や北海道で繁殖が終わり、東南アジアへの渡り途中で出会えます。



ノビタキ: 中部地方以北の各地で繁殖し、秋に南下するため、9月～10月を中心にあきる野の草原、主に河川敷(多摩川などの広い場所)で滞在します。特徴の黒い顔は繁殖期中のオスのみです。